

世田谷介護ネットニュース

第22号

発行日：平成23年2月9日

発行：世田谷区介護サービスネットワーク

事務局：世田谷区社会福祉事業団

世田谷区福祉人材育成・研修センター

連絡先：東京都世田谷区成城6-3-10

電話：(03)5429-3100

平成22年度 第3回通所連絡会定例会報告

通所連絡会は、平成22年12月21日(火)に成城ホール4階CD会議室において第3回通所連絡会定例会を開催しました。タイトルは『デイ情報交換会』。認知症や生活相談員の業務、現場でのプログラムの3グループに分かれ、ディスカッション形式の意見交換や情報交換を行いました。

参加事業所は22事業所、参加者は35名でした。通所介護や通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護

など通所系サービス事業所が実際現場で聞きたい内容について参加者の間で多くの意見が飛び交い、様々な事業所の特徴や方針、実際の活動内容や現場での工夫について意見交換されていました。

今回の定例会でも大変貴重な時間が持て、もっと長い時間での開催を望む声がアンケートで多く寄せられました。

次回、第4回通所連絡定例会は、平成23年2月15日(火)「通所系サービスで行われるリハビリテーション」をテーマに、(医社)新誠会 成城リハビリテーションクリニックの医師、長谷川幹先生を迎え講習会を開催します。本年度まだ世田谷区介護サービスネットワークに入会されていない事業所の方は、今後も様々な研修や講習会を企画していますので、是非ご参加ください。入会手続きは、事務局の世田谷区福祉人材育成・研修センターまでご連絡お願いいたします。

おおしま整形喜多見介護センター 土井知紀



平成22年度 第3回訪問介護連絡会定例会報告

平成23年1月21日に開催された定例会では、よく直面する困った事例を元に、参加者でグループ別に、抽出された問題をどのようにとり組めばよいのか、経験から来る知識を出し合い検討しました。

「たくさんの問題を抱える利用者を支える為に」～問題解決の実際を学ぼう～というタイトルのとおり、当日参加されたサービス提供責任者の皆様、他職種の皆様がそれぞれ、実践している工夫(認知症状について)など、意見が飛び交い、本当にすばしかったです。

その後、アドバイザーの念佛氏から、大事なことは①連携を早期に取り、ネットワークを構築すること、②情報を正確に共有することであるとお話がありました。

また、あんしんすこやかセンターの役割についても分かりやすくお話を下さり、サービス提供責任者も安心して相談に行けることを確認しました。

そのほか、地域や行政医療を巻き込むための、それぞれの役割、また、ケアマネとサービス提供責任者は対等であり、そのための知識を持つことがとても重要であると、簡潔に分かりやすくお話してくださいました。



また、質の向上を目指す為には「今日参加していない方々もぜひ参加してもらいたい。」と、みんなでサービスの質を底上げする為に、是非参加者を増やすためアピールすることが大事と強調されていました。

「ケアマネさんとの連携」に始まり、リスクマネジメント「苦情を事業所の力に」

統一書式の作成と“世田谷のスタンダードモデルを作る”というのが今年度の目標でした。次年度も更なる目標に向かい、訪問介護事業所の皆さんと勉強していきたいと思っております。

訪問介護連絡会代表 宮川英子

連載 薬局からこんにちは（6）

～薬局成城ファーマシー祖師谷店 橋本孝子～

今回は骨粗鬆症の治療薬についてのお話です。

骨もお肌と同じく新陳代謝を繰り返しています。古くなった骨は壊され、その部分に新しい骨が作られます。通常は骨を“壊す”と“作る”スピードはバランスが保たれていますが、このバランスが崩れると骨がもろくなり、骨粗鬆症につながります。

代表的な治療薬にボナロン、ベネット、フォサマック、アクトネルなどのビスホスホネート製剤と呼ばれるグループの薬があります。これらの薬は骨を壊す働きを抑えることで骨量を増加させます。

ビスホスホネート製剤は朝起きてすぐに服用し、服用後 30 分は横にならないように注意します。その理由は、この薬の成分が人間の粘膜に近い化学構造をしているため、胃や食道の粘膜にくっついて潰瘍をひきおこす可能

性があるからです。それを予防するために十分な量の水で服用し、食道を完全に通過するまでは横になることを避けなければなりません。また、粘膜にくっつきやすいので、この種類の薬は錠剤をつぶして服用することは避けてください。

最近では患者さんの負担を軽減させるため、毎日服用ではなく 1 週間に 1 回服用する製剤も出ています。これらは毎日服用するタイプと効果に差はありません。

服用法に特徴のある薬ですが、慣れてくればそれほど負担にはなりません。

正しい服用法を理解して服用するとともに、カルシウムやビタミン D を積極的に摂ったり、運動をするなどの日常生活の改善も重要です。



24 時間巡回・随時訪問サービス（3）【随時訪問における転倒介助】

～ジャパンケアサービス 24 時間随時訪問介護員西村尚樹～

要介護3 性別：男性 年齢：83 世帯状況：家族同居
（妻・娘） 疾患：脳梗塞、左片麻痺 サービス利用期間 8ヶ月

今回登場するご利用者様は、脳梗塞の後遺症の為左片麻痺であり、ご家族様と同居されていますが、転倒してしまうとご家族では対応できず、そのため転倒時に随時訪問が必要なご利用者様です。

契約時に担当の介護支援専門員から頂いた導入理由では、以前転倒された時に左鎖骨骨折され、ご本人様一人での起き上がりは困難との情報を頂きました。

24 時間随時訪問介護サービスを開始し、ケアコール機を設置した日の夜、オペレーションセンターへ緊急のコールがありました。ご本人様より、転んでしまったとのコールが入りました。オペレーターより一度ご自宅へ連絡し、ご家族様へも情報提供を行おうとした所、不在であった為、オペレーターよりケアコール機へコールバックを行い、直ちにヘルパーが訪問させて頂く旨をお伝えしました。

ヘルパーが訪問させて頂くと、お台所と寝室のあいだの床にて仰向けで倒れていらっしゃいました。ご家族様は、いらっしゃいましたが、ご家族様の力では起こすこ



とができないので、ヘルパーをお待ちでした。ヘルパーより「ご気分は悪くないですか、どこか痛みはありませんか。」との問いかけに、ご本人様より「大丈夫です。」との返答がありました、意識の有無を確認し外傷・気分不快

がない事を確認いたしました。起き上がり介助を行わせていただき、ベッドへの移動を介助させて頂きました。転倒の理由は、トイレへ行こうとして転んでしまったとの事でした。転倒後の体力の消費を考慮し、ベッド上で尿瓶を使用し排尿していただき、サービス終了しました。

在宅介護では、体重の大きい方が転んでしまい、無理にご家族様で対応を行おうとして、腰や腕を悪くしてしまう方も決して少なくありません。

この事例のような状況でも 24 時間随時訪問サービスを利用して頂き、必要時コールをして頂く事で、ご家族様の身体的な介護負担・ご本人様の身体能力低下の軽減を図れていると感じております。

福祉と医療の連携を進めるシンポジウム

在宅療養支援のためのよりよい連携

《かかりつけ医、病院MSW、ケアマネジャー編》

2011年2月15日(火)午後7時～9時
世田谷区民会館2階集会室(開場:午後6時30分)

■第1部：発表『福祉と医療の連携の現状について』

かかりつけ医、病院MSW、ケアマネジャーそれぞれの立場で取り組んでいることや、「在宅療養を支援する上で他の職種に知っていてほしいこと、一緒に取り組みたいこと」等の発表を通じて、お互いの理解を深めたいと思います。

■第2部：パネルディスカッション『よりよい連携に向けて、今後必要なもの』

区が「医療・看護・介護の連携に関するモデル事業」で進める個々の連携を支える情報共有のしくみづくりなどを題材に、よりよい連携に向けた意見交換を行います。

【発表者・パネリスト(予定)】※敬称略

○医師：大島幸吉郎(おおしま喜多見駅前医院)、小泉孝夫(うなね杏霞苑)、
幡野浩一(幡野内科クリニック)、斉藤康洋(上田クリニック)

○病院MSW：樋口昌彦(至誠会第二病院)、菊池真寿美(玉川病院)

○ケアマネジャー：末延法子(シーエルポート世田谷)、成田和代(ケアプラン駒沢)

☆区のホームページ <http://www.city.setagaya.tokyo.jp/020/d00032589.html>

☆問い合わせ先 介護保険課事業者支援担当 TEL.5432-2884 FAX.5432-3042
保健医療担当課地域医療担当 TEL.5432-2649 FAX.5432-3017

『「せたがや介護の日」を開催しました!』の発行について

昨年、11月11日に世田谷区民会館で開催しました、「せたがや介護の日」について、イベント内容をまとめた報告誌(A3、1枚)を作成し、区の窓口等で配布しております。

日ごろの業務の中で、利用者の方へ配布していただける介護事業者さんがございましたら、以下の連絡先にお申し出ください。必要部数をお渡しいたします。

【連絡先】

世田谷区地域福祉部高齢福祉課管理係 電話 5 4 3 2 - 2 3 9 7
FAX 5 4 3 2 - 3 0 2 1

研修情報・イベント情報

【世田谷区介護サービスネットワークの研修】

1)平成 22 年度第 4 回スポット研修☆

日時：平成 23 年 2 月 17 日（木）18:30～20:30

（定員 80 名、申込締切：2 月 15 日）

会場：成城ホール集会室 C・D

内容：「日常生活動作を体操にしよう」

～みんなでできるだれでもできる～

講師：佐野公美子氏（健康運動士、介護福祉士、ADL 対応型高齢者体操上級公認指導者）

2)平成 22 年度第 4 回通所連絡会定例会☆

日時：平成 23 年 2 月 15 日（火）18:30～20:30

会場：成城ホール集会室 E（定員 60 名）

内容：「通所系サービスで行われるリハビリテーション」

講師：長谷川幹医師（成城リハビリテーションクリニック）

3)平成 22 年度第 5 回通所連絡会定例会☆

日時：平成 23 年 3 月 15 日（火）18:30～20:30

会場：成城ホール集会室 C・D

内容：情報交換会

【世田谷区福祉人材育成・研修センターの研修】☆

1)相談援助研修（基礎編）

①平成 23 年 2 月 25 日（金）14:00～17:00

②平成 23 年 3 月 11 日（金）14:00～17:00

定員：36 名

会場：世田谷区福祉人材育成・研修センター

講師：西野雅信氏

千葉県福祉ふれあいプラザ介護実習センター・マネジャー・専門職研修担当・相談室相談員



【その他のイベント】

1)ケアマネジャーとのフォーラム

「知ってるつもりでの在宅医療～ケアマネジャーのための在宅医療」

平成 23 年 3 月 2 日（水）19 時 30 分から、2 月 28 日締切

会場：梅丘パークホール

主催：世田谷区医師会、後援：世田谷区

講師：神津内科クリニック院長 神津仁医師

申込：FAX：:03-3418-2677（世田谷区医師会宛）

問い合わせ先：世田谷区医師会：3410-5111

2)「自分らしい終末期を考える」☆

日時：平成 23 年 2 月 19 日（土）13:00～16:00

会場：鳥山区民センターホール

主催：せたがや福祉 100 人委員会

世田谷区共催

3)第 7 回ケアシンポジウム

「いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるために」

～みんなで作り出す 365 日 24 時間の安心～

日時：平成 23 年 3 月 4 日（金）11:00～16:40

会場：北とびあ（JR 王子駅徒歩 2 分）

問い合わせ：都高齢社会対策部計画課

Tel：5320-4596

4)「高齢者と尿路感染症」について

日時：平成 23 年 2 月 24 日（木）19:00～20:30

会場：駒沢診療所ウェルネスセンター3F

（上馬 4-5-6） 2 月 23 日締切

講師：駒沢診療所所長 米谷美津子

問い合わせ先：在宅ケアセンターもえぎ 大江

電話：3424-5200

5)「平成 24 年介護保険制度改正の動向を知る」

～1 日で学ぶ介護保険改正！～

日時：平成 23 年 3 月 13 日（日）10:00-16:00

会場：日経ホール（千代田区大手町 1-3-7）

主催：東京都福祉保健局

実施団体：東京都介護支援専門員研究協議会

問い合わせ（実施団体）：3556-1541

6)若年認知症啓発講座「若年認知症と共に歩む」

日時：平成 23 年 3 月 12 日（土）13:00～17:00

場所：目黒区総合庁舎 2 階大会議室

主催：NPO 法人いきいき福祉ネットワークセンター

共催：目黒区、後援：東京都など

問い合わせ先：主催者 電話：6808-8575 当日参加可

☆印の問い合わせ先は

世田谷区福祉人材育成・研修センター

電話：5429-3100

会員事業所の研修、イベントの情報を掲載します。ネットニュースは、隔月奇数月に発行します。希望者は、事前に事務局にお問い合わせください。ただし、掲載できるのは非営利の研修、講演会、イベント等に限りです。

予告 平成 23 年度は運営委員の改選があります。運営委員になると活動を通じて顔の見える関係の仲間ができるだけでなく、研修や講演会の企画運営などを通じて多くのことを学ぶことができます。4 月に募集します。多くの方の応募をお待ちしております。

編集担当から

◆今号は少々変則的な紙面構成になりました。研修、講演会、シンポジウムなど様々な企画があります。気分転換を兼ねて区外の企画にも参加してはどうでしょうか。

◆寒い日が続きますが、春の訪れは着実に。梅のよい香りが漂ってきます。羽根木公園では梅祭りが開かれております。

問い合わせ先

世田谷区社会福祉事業団

世田谷区福祉人材育成・研修センター

電話:03(5429)3100、FAX:03(5429)3101